刊行！

どこの子・よその子・地域の子

―地域が見守る子どもの成長

■本書の体裁
A5判　200ページ　カラー
（写真・図版　約170枚）

どこの子・よその子・地域の子―地域が見守る子どもの成長

さいたま民俗文化研究所
企画・編集

◎定価1部　2,500円＋税（送料無料）

■申込み書　住所・氏名・部数を御記入の上、さいたま民俗文化研究所までお申込みください。

申込み先	さいたま民俗文化研究所（所長 大舘 勝治）		
	〒359-1146 埼玉県所沢市小手指南5-6-9		
	TEL 090-1117-5506　E-mail:s_minzokukenkyujyo@jcom.home.ne.jp		
申込み者	〒 住所	申込み部数	部
	氏名	備考	

民俗伝承から発想する令和の地域づくり

日本では、古来、子どもを宝として地域ぐるみで誕生を期待し、出産を祝福し、助け合い、成長の節目ごとに祝いをして成長を見守る伝統があった。七歳までは神の子といわれ、七歳の祝いが済むと地域社会の一員として認知され、地域の祭りや行事に参加し、先輩や大人たちの教えを受けて成長した。また、地域の生業などにたずさわる機会もあり、近隣の小父さんや小母さんなどと働いて助言などを得て成長してきた。

小学校に入学すると近隣で遊び仲間ができ、男児であればベーゴマやメンコなどの遊びに夢中になる。子どもの遊びには子ども仲間で決めたルールがあり、遊びをとおして約束事を守ることを身につけた。

山や川の遊びでは、強制されない学習の場でのびのびと生き物と触れ合い、植物や昆虫などの生態を知り、情操を豊かにする機会が多くあった。

本書では、伝統的な民俗社会が生きていた主として昭和時代を振り返り、令和の少子高齢化社会の中で民俗伝承を生かした地域づくりに貢献すべくまとめたものである。本書を広く多くの人に読んでいただき、地域に伝承するの民俗文化を守り、民俗文化の魅力を地域づくりに役立てていただければ幸いである。

さいたま民俗文化研究所長　大舘勝治

■本書の構成

■**秩父・子育ての儀礼**

○神の子からムラ（地域社会）の子へ―秩父の伝統的な子育て

■**各地の子育ての儀礼**

○子どもの成長を願う赤ちゃん土俵入り―芦北町佐敷諏訪宮例大祭

○凧揚げは子どもの成長祝い―春日部・田原・隠岐の島の凧揚げ

■**大人社会への仲間入り**

○男児一五歳の「大山詣り」―宮代町の大山講

○少年たちの慰霊の火祭り―「猪俣の百八燈」

■**地域の祭り・行事・芸能を伝える**

○春の訪れを告げる祭り―横手のかまくら

○子どもが主役の名台詞―津奈木町「平国六方踊り」

○白糠で育ち白糠に育てられる子どもたち―東通村白糠の能舞伝承

○子どもの成長、見守る大人―川里村屈巣の民俗行事

○伝統行事をになう地域の子どもたち―白岡市の民俗行事

○祭りに参加した子どもごころ―「秩父川瀬祭」

○木遣を歌って祭りに参加―「越ヶ谷秋まつり」

○子どもたちの頑張り―「小鹿野子ども歌舞伎」の活動

○子どもの行事を大人が支援―小鹿野町三山半平地区「天王焼き」

○名手Nさんの笛を吸収―狭山市笹井での子ども時代

○焚火を囲んでメザシと赤飯で交流―所沢市の初午

■**学校で学ぶ地域の魅力**

○総合的な学習の時間で学び発表―両神柏沢の「太々神楽」

○子どもたちの「尻高人形」への取組み―高山小学校の伝統芸能教室

■**遊びから学ぶ集団生活**

○川の遊びと山の遊び―両神村の子どもたちの遊び

○戦前の北秋津の子ども―柳瀬川に育てられた父

○ベエゴマは賭け事？―東京下町の子どもの遊び①

○ボール箱いっぱいのメンコ―東京下町の子どもの遊び②

○遊びに禁止は付きもの―東京下町の子どもの遊び③

○庭が格好の遊び場―東賀茂郡下山村の女児の遊び

■**親の仕事に学ぶ**

○「世界農業遺産」に認定―父が実践した「武蔵野の落ち葉堆肥農法」